二〇一一（平成二三）年度　研究所報告

一　組　織

所　　長　藤嶽　明信
主　　事　釆睪　晃
委　　員　門脇　健（文学部長）
長谷岡英信（事務局長）
織田　顕祐（大学院文学研究科長）
徳岡　博巳（短期大学部長）
古川　哲史（学生部長）
松川　節（入学センター長）
藤嶽　明信（真宗総合学術センター長）
乾　源俊（教授・中国文学）
李　青（教授・中国現代文学・中国語）
木越　康（准教授・真宗学）
山本　和彦（准教授・仏教学）

二　研究組織

〔特別指定研究〕

「建学の精神」教育推進研究

研究課題　大谷大学建学の精神の具現化
研　究　員　草野　顕之（研究代表者・学長・教授・日本仏教史学）
木越　康（チーフ・准教授・真宗学）
望月　謙二（教授・国語科教育学）
渡辺　啓真（教授・倫理学）
福島　栄寿（准教授・日本史学）
箕浦　暁雄（准教授・仏教学）
冨岡　量秀（講師・真宗学・幼児教育学）
西本　祐攝（講師・真宗学）
研究補助員　拝原　祥子（博士後期課程在学）

〔指定研究〕

国際仏教研究

研究課題　諸外国における仏教研究の動向の把握と資料の整理・収集・公開
研　究　員　ロバート F・ローズ（研究代表者・教授・仏教学）
井上　尚実（准教授・真宗学）
藤枝　真（准教授・哲学・宗教学）
松浦　典弘（准教授・東洋史学）
嘱託研究員　Michael Pye（マールブルク大学名誉教授）
Mark L. Blum（ニューヨーク州立大学教授）
Paul Watt（デポー大学教授）
羽田　信生（毎田周一センター所長）
Michael J.Conway（本学非常勤講師）
研究補助員　斎藤　覚（博士後期課程在学）

王　奕明（博士後期課程在学）

西蔵文献研究

研究課題　チベット語文献及びパーリ語貝葉写本のデータベース化

研究員　兵藤　一夫（研究代表者・教授・仏教学）
福田　洋一（教授・仏教学）
山本　和彦（准教授・仏教学）

嘱託研究員　白館　戒雲（本学名誉教授・特別研究員）
清水　洋平（本学、名古屋大学非常勤講師・特別研究員）
宮本　浩尊（本学非常勤講師）

研究補助員　渡邊　温子（博士後期課程在学）
永藁　知也（博士後期課程在学）

真宗同朋会運動研究（和田稠氏の寄付金による特別研究）

研究課題　真宗同朋会運動の歴史と現状を「聞き書き」を通して把握し、その現代的意義を明らかにする

研究員　水島　見一（研究代表者・教授・真宗学）
佐賀枝夏文（教授・社会福祉学）
冨岡　量秀（講師・真宗学・幼児教育学）

研究補助員　佐々木秀英（博士後期課程満期退学）
安居　宏淳（博士後期課程在学）

〔資料室〕

大谷大学史資料室

整理課題　大学史関係資料の収集・整理

資料室長　釆睪　晃（研究所主事・准教授・仏教学）

嘱託研究員　戸次　顕彰（本学非常勤講師）

研究補助員　稲葉　維摩（博士後期課程在学）

東本願寺海外布教資料室

整理課題　大谷大学図書館所蔵「東本願寺旧蔵資料」海外布教関係部分の整理

資料室長　桂華　淳祥（教授・東洋史学）

研究補助員　濱野　亮介（博士後期課程在学）

親鸞関係文献目録資料室

整理課題　親鸞関係文献のデータの整理と公開の研究

資料室長　山野　俊郎（教授・仏教学）

研究員　山田　恵文（講師・真宗学）

研究補助員　大艸　啓（博士後期課程満期退学）

デジタル・アーカイブ資料室

整理課題　大谷大学所蔵貴重資料のデジタル・アーカイブの構築

資料室長　釆睪　晃（研究所主事・准教授・仏教学）

〔一般研究／共同研究〕

研究課題　元朝期から明朝初期の言語接触に関する文献学的研究

研究員　渡部　洋（研究代表者・准教授・中国語・近世の中国語文法）

協同研究員　松川　節（教授・東洋史学・人文情報学）
小野　浩（京都橘大学教授）
古松　崇志（京都大学人文科学研究所助教）
石野　一晴（千里金蘭大学非常勤講師）
毛利　英介（神戸女子大学非常勤講師）

研究協力員　伴　真一朗（博士後期課程満期退学）

研究課題　日本における西洋哲学の初期受容―清沢満之の東京大学時代未公開ノートの調査・分析―

研究員　池上　哲司（研究代表者・教授・倫理学）
加来　雄之（教授・真宗学）
門脇　健（教授・宗教学）
朴　一功（教授・西洋古代哲学）
村山　保史（准教授・西洋哲学）

協同研究員　藤田　正勝（京都大学大学院教授）
竹花　洋佑（本学非常勤講師）
西尾　浩二（本学非常勤講師）

研究協力員　竹中正太郎（博士後期課程満期退学）

研究課題　世界遺産エルデニゾー僧院に関する総合的研究―過去の復元から未来への保存へ―

研究員　松川　節（研究代表者・教授・東洋史学・人文情報学）
三宅伸一郎（講師・チベット学）

研究課題　皎然の禅体験と詩作

研究員　乾　源俊（研究代表者・教授・中国文学）
佐藤　義寛（教授・中国文学）

協同研究員　浅見　洋二（大阪大学大学院教授）
川合　康三（京都大学大学院教授）
齋藤　茂（大阪市立大学大学院教授）
愛甲　弘志（京都女子大学教授）
谷口　匡（京都教育大学教授）
緑川　英樹（京都大学大学院准教授）
湯浅　陽子（三重大学准教授）
大角　紘一（任期制助教）
永田　知之（京都大学人文科学研究所助教）

研究協力員　谷口　高志（大阪大学大学院助教）

研究課題　道宣著作の研究

研究員　大内　文雄（研究代表者・教授・東洋史学）
松浦　典弘（准教授・東洋史学）

協同研究員　藤井　政彦（本学非常勤講師）

研究協力員　戸次　顕彰（本学非常勤講師）
　　松岡　智美（博士後期課程在学）
　　河邊　啓法（博士後期課程在学）

研究課題　小学校の教育実践にみられる子どもの変容の分析と考察

研究員　髙山　芳治（研究代表者・教授・社会科教育学）
　　岩渕　信明（教授・教育学　社会科教育）
　　望月　謙二（教授・国語科教育学）
　　関口　敏美（教授・教育学・教育史）
　　市川　郁子（講師・教育学　音楽科教育）

協同研究員　大野　僚（本学非常勤講師）

研究課題　『教行信証』の思想研究―近代教学の成果を踏まえて―

研究員　延塚　知道（研究代表者・教授・真宗学）
　　山田　恵文（講師・真宗学）

〔一般研究／個人研究〕

研究課題　日本で発見されたオリヤー語『マハーバーラタ』「津島貝葉」の校訂テキスト作成

研究員　ダシュ　ショバ　ラニ（講師・仏教学）

研究課題　天皇家の商品化過程にかんする歴史社会学的研究

研究員　右田　裕規（任期制助教・特別研究員）

研究課題　国会図書館所蔵「朝鮮筆記」の研究―かな書き朝鮮語に着目して

研究員　許　秀美（任期制助教・特別研究員）

研究課題　プラトンの中期イデア論の生成

研究員　西尾　浩二（本学非常勤講師・特別研究員）

研究課題　本地物語の研究―菩薩行と誓願を視座として―

研究員　箕浦　尚美（本学非常勤講師・特別研究員）

研究課題　変動期の社会における法秩序の再構築―南アフリカとカンボジアの比較社会学的研究

研究員　阿部　利洋（准教授・社会学）

研究課題　民族文化祭の比較研究

研究員　飯田　剛史（教授・社会学）

研究課題　世界史における東アジアとアフリカ―国際共同研究のための基盤形成―

研究員　古川　哲史（准教授・歴史学／比較文化・社会論）

研究課題　チベット仏教における論理学の研究
研究員　白館　戒雲（本学名誉教授・特別研究員）

研究課題　高次脳機能障害者とその家族のピアサポートによる自己と関係の変容に関する発達的研究
研究員　脇中　洋（教授・発達心理学・法心理学）

研究課題　フレデリック・ダグラス晩年のマスキュリニティ言説とアメリカ社会における人種表象
研究員　朴　珣英（本学非常勤講師・特別研究員）

研究課題　貧困に対する活動と社会的レジリエンスの社会学的研究―シカゴ学派からの展開と実践
研究員　西川　知亨（任期制講師・社会学）

研究課題　タイ国中部地域の王室寺院が所蔵する東南アジア撰述仏教説話写本の研究
研究員　清水　洋平（本学、名古屋大学非常勤講師・特別研究員）

研究課題　ツォンカパ中観思想の基礎的研究
研究員　福田　洋一（教授・仏教学）

研究課題　アメリカの公共図書館における専門職制度の総合的研究：専門職と非専門職の枠組み
研究員　山本　貴子（准教授・図書館情報学）

研究課題　多感覚表象形成メカニズムの進化・発達的分析
研究員　高橋　真（任期制講師・比較認知科学）

三　指定研究の動向

「建学の精神」教育推進研究

【研究目的】

本研究は、「建学の精神」の具現化を課題とし、これについて具体的には以下の三つの視点から研究を推進するものである。

①「建学の精神」の現代的表現化
②「人間学Ⅰ」の共通資料集の作成
③「建学の精神」を活かした学科教育の在り方

ここに言う「建学の精神」とは、直接には大谷大学初代学長清沢満之による「開校の辞」（明治三四年、移転開講式）と、第三代学長佐々木月樵による「大谷大学樹立の精神」（大正一四年、入学者宣誓式訓辞）を指す。

研究の視点①では、本学が今日まで教育の根幹に据えてきた両学長の訓辞の意義を再確認し、これを現代的形で表現していくことを目指す。両訓辞は、それぞれ「私立学校令（明治三二年公布）」と「大学令（大正七年公布）」における宗教

教育に対する厳しい制約のもとで公開されたものである。ここでは、そのような当時の歴史的状況を加味したうえで両訓辞の持つ意義を再検証し、その精神が持つ現代的意義の確認と表現を含めた具現化の問題について、検討していくことが期待される。

視点②では、本学の「建学の精神」に基づく教育を最も体現する科目である「人間学Ⅰ（文学部）」あるいは「仏教と人間Ⅰ（短期大学部）」に関して、教育の基礎となる共通資料の作成に向けた検討を進める。現在同科目は、主に真宗学または仏教学を専門とする専任の教員によって、「仏教と現代」（短期大学部では「仏教と人間」の科目名）という共通テーマのもとで行われている。しかし、授業内容や到達目標などに関しては統一がとれておらず、大学共通科目としての教育の質は、担当教員の工夫と裁量に依存した形で行われている。ここでは、これまでの「人間学Ⅰ」教育の歴史を十分に踏まえたうえで、いかにして「建学の精神」を体現する科目として、教育内容を共通化できるかを、共通資料の作成を通して具体的に検討していくこととする。

視点③では、以上の①および②での成果を踏まえ、大谷大学の建学の精神と各学科における教育との連関について検討作業を行うことを目指す。現在本学では、文学部九学科、短期大学部二学科で、それぞれのカリキュラム理念を掲げた教育を行っている。今後ますます学科ごとのポリシーの明確化が進む中で、いかにして「建学の精神」との関連を保ちつつ専門教育を行うことができるのか、十分な検討が必要とされる。ここでは、各学科の教育理念を念頭に置きながら、建学の精神をどのような形で反映させることができるのか、検討を進めるものとする。

【活動報告】

本年度は、三月二三日開催の研究会を含め、全体での研究会が九回（公開四回）、調査のための出張が一回、その他適宜事務連絡会議を行った。詳細は以下の通りである。

第一回研究会

◇二〇一一年五月一〇日（火）午後四時三〇分～五時五〇分

場所：博綜館三階　三〇三教室

議題：①建学の精神の具現化について

②研究員・補助員の顔合わせ

③二〇一一年度前期、全体会議の日程調整

備考：研究代表者による研究班の課題説明

第二回研究会

◇二〇一一年六月九日（木）午後四時二〇分～五時五〇分

場所：博綜館五階　第五会議室

議題：清沢満之・佐々木月樵の言葉が「建学の精神」に定められた背景

形式：公開研究会

講師：一楽真氏（大谷大学教授）

第三回研究会

◇二〇一一年七月七日（木）午後四時二〇分～五時五〇分

場所：響流館四階　真宗総合研究所ミーティングルーム
議題：「建学の精神」具現化に関する討議

第四回研究会
◇二〇一一年七月二八日（木）午後四時二〇分～五時五〇分
場所：響流館四階　真宗総合研究所ミーティングルーム
議題：「建学の精神」具現化に関する討議

第五回研究会
◇二〇一一年九月二二日（木）午後四時二〇分～五時五〇分
場所：響流館四階　真宗総合研究所ミーティングルーム
議題：「建学の精神」具現化に関する討議

第六回研究会
◇二〇一一年一一月二日（水）午後四時三〇分～七時
①公開研究会
場所：響流館三階　マルチメディア演習室
講師：磯前順一氏（国際日本文化研究センター　准教授）
テーマ：「明治期における「宗教」という言葉の位相」
②討論会
場所：響流館四階　真宗総合研究所ミーティングルーム
内容：公開研究会を踏まえて、磯前氏と研究員との討論会

第七回研究会
◇二〇一一年一二月一日（木）午後四時二〇分～五時五〇分
場所：響流館四階　真宗総合研究所ミーティングルーム
形式：公開研究会
テーマ：「宗教教育推進研究に関する基調報告」
講師：関口敏美氏（大谷大学教授）

第八回研究会
◇二〇一二年二月一四日（火）午後二時～三時三〇分
場所：響流館四階　真宗総合研究所ミーティングルーム
議題：本年度総括

第九回研究会
◇二〇一二年三月二三日（金）午前一〇時三〇分～一二時
場所：響流館四階　真宗総合研究所ミーティングルーム
テーマ：「仏教と教育の関係性に関する哲学的・臨床的研究
―「心の教育」の所在を探る―」研究成果報告
講師：山内清郎氏（大谷大学准教授）

出張調査
◇二〇一一年一一月一六～一七日（水～木）
調査員：研究員　木越康・西本祐攝
調査先：西願寺（広島県）
目的：「建学の精神」の変遷について、寺川俊昭氏に聞き取り調査を行い、経緯を明らかにすること

【本年度の経過報告と今度の課題】

「建学の精神」教育推進研究は、本年度、研究の視点①を先行して研究活動を進めてきた。そのような中で、以下の三つの内容が、研究課題として明らかとなった。

1　近代化過程における「宗教学校」・「宗教教育」の位置に関する研究

◎清沢満之の「宗教学校」という言葉の意味に関する研究

→磯前順一氏による講演（第六回研究会）
・専門学校令において文科省が、キリスト教系大学を統制する意図を持っていたのに対し、仏教系大学はその統制外にあったことなどが報告された。

◎近代化過程における「宗教教育」をめぐる問題点の整理
①専門学校令と大学令における文科省の意図についてのさらなる研究
・大学令において文科省は、宗門系大学への指導として社会福祉系、もしくは文学部系（リベラルアーツ）に位置付けるよう指導があったが、現状として宗門系は文学部が多い。
→明治期、宗教というものを解体して倫理や道徳にすり替えていこうとする意図が働き、宗門系は社会福祉やリベラルアーツ（寺子屋）的な任にあたらせようとしたのか？宗門系は自らを思想・哲学分野に位置付けようとし、文学部にとどまったのか？宗門系大学の動向を確認する必要がある。
→二〇一二年度：公開研究会開催予定
②文部省の宗教・宗教教育、政策的な研究：宗教と教育の関係
→二〇一二年度：公開研究会開催予定
③明治における仏教史・教育史
→二〇一二年度：谷川穣氏公開研究会開催予定

2　本学における「建学の精神」の位置に関する研究

◎清沢満之の「開校の辞」と佐々木月樵の「樹立の精神」が、「建学の精神」として位置付けられることとなった経緯の確認
・寺川俊昭氏への聞き取り調査（二〇一一年一一月実施）
→松原祐善学長が、清沢満之の「開校の辞」を源流とする大学運営へと鮮明化させた。佐々木の「樹立の精神」は文化的な香りが強いが、「精神」という面で印象が弱いという議論が当時なされた。結果、両者の言葉を「建学の精神」として堅持することとなった。
清沢によって「真宗」は、行政面においても教学面においても、近代的な形での大転換を遂げた。そのことの大学における確認が鮮明化した。

◎清沢満之の「開校の辞」の持った意味と、その現代的表現化

◎佐々木月樵の「樹立の精神」の持った意味と、その現代的表現化

3　現代における仏教系大学の現状と課題に関する研究

◎仏教系大学における「建学の精神」自己表現の調査
→「仏教と教育の関係性に関する哲学的・臨床的研究
―「心の教育」の所在を探る―」　の科研報告を手掛かりに研究開始。

◎本学の現状
・学則、宗教行事など本学の宗教的雰囲気の問題点の整理。

・教職員、学生の「建学の精神」の受入状況（『知進守退大谷大学白書―その実態』一九九七年時点からの課題）。
・「建学の精神」の具現化あるいは現代的表現化とは、脱宗教化・脱仏教化であるのか。　宗教色の強調であるのか。

国際仏教研究

本研究は、諸外国における仏教を中心とした宗教研究の動向を把握するとともに、国際社会に対して本学の真宗・仏教研究を公開することを目的としている。本年度も英米班、ドイツ・フランス班・東アジア班の三班に分かれて研究活動を進めてきた。各班の研究成果の概要は以下の通りである。

〈英米班〉

I　翻訳研究活動

(1) *Cultivating Spirituality: A Modern Shin Buddhist Anthology* 出版について

長年取り組んできた真宗近代教学論文集の英訳出版が今年度ようやく実現し、一一月にSUNY出版から発刊された（書誌情報：Mark L. Blum and Robert F. Rhodes, eds, Cultivating Spirituality: *A Modern Shin Buddhist Anthology*, State University of New York Press, 2011. 390 pages. ISBN 978 8-1-4384-3891-5）。年末に関係研究機関・図書館・研究者への献呈本の発送を終え、今後、出版を記念した真宗近代教学に関するシンポジウムを二〇一三年度に開催すべく計画を進めていく。

(2) 佐々木月樵「大谷大学樹立の精神」翻訳研究について

一昨年度から継続してきた佐々木月樵の「大谷大学樹立の精神」英訳については、以下の日程で翻訳研究会を行い、一通り全体の翻訳を終えた。今後、全体の訳語や文章の一貫性を確認し、必要な部分に注を付し、序文を付けて来年度の紀要に出版できる形にまとめる予定である。

第一回研究会　一一月二九日（火）午後六時～七時三〇分
第二回研究会　一二月二〇日（火）午後六時～七時三〇分
第三回研究会　二月　三日（金）午後二時三〇分～四時

II　国際学会関係

(1) 国際真宗学会（IASBS）学術大会

八月四日（木）から六日（土）の三日間、大谷大学を会場に第一五回国際真宗学会学術大会が真宗関係五大学共同開催の形で開催された。学内実行委員会が立ち上がるまで国際研英米班が窓口となって準備を進め、実行委員会と共に大会運営にも協力した。一〇ヵ国以上から総数一三〇名あまりの参加者があり、充実した大会となった。英米班研究発表の面では、大谷大学パネルに加えて嘱託研究員・研究補助員による個人発表二本が行われた。

・学術大会の概要

開催期日：二〇一一年八月五日（金）・六日（土）
（四日の夕方には龍谷大学アジア仏教センターとの

共催による「浄土教に関する特別国際シンポジウム」）

会場：大谷大学　響流館三階　メディア・ホール、マルチ・メディア演習室

テーマ：True Disciple of the Buddha　真仏弟子

サブテーマ：The Mission and Challenges in Contemporary Society　現代社会における課題と使命

二日間で七つのパネル発表と三一の個人発表があった。大谷大学パネル：Shin Responses to Modernity　（井上・ブラム・ドビンズ・パイ）

嘱託研究員、研究補助員による個人発表

1）Michael Conway, "The Right Track for Preaching and Listening to the Dharma: A Consideration of Shinran's Quotation of the Anleji in His Comment on the 'True Disciple of the Buddha'"

2）Shusuke Yamataka, "True Disciple of Buddha: The Life of Realizing Nirvana"

(2) ヨーロッパ日本研究協会（EAJS）国際会議

八月二四日から二七日までエストニアのタリン大学で開催された第一三回ヨーロッパ日本研究協会国際会議の宗教・思想史部会で、以下のような九〇分のパネル発表を行った。概要は以下の通り（詳細は所報五九号記事を参照）。

Otani University

Panel Title: Spiritual Healing in Japanese Pure Land Buddhism:

Cures for Suffering in Genshin's and Shinran's Thought

Presenters:

1）Robert RHODES, professor（Buddhist Studies）

"Terminal Care Practice in Heian Pure Land Buddhism: the Case of the Nijūgo zammaie"

2）Michael CONWAY, lecturer（Shin Buddhist Studies）

"Medicinal Metaphors in a Soteriology of Transformation:

Shinran's View of the Power of the Nenbutsu"

3）INOUE Takami, associate professor（Shin Buddhist Studies）

"A True 'Healing' in Amida's Compassionate Light:

The Cure for Incurable Diseases in the *Nirvana Sutra and the Zenkoji Engi*"

(3) アメリカ宗教学会（AAR）年次大会

一一月一九日（土）から二二日（火）まで、米国カリフォルニア州サンフランシスコ市において、アメリカ宗教学会（American Academy of Religion）の年次大会が開催され、

研究員一名（庶務：井上尚実准教授）と嘱託研究員一名（マイケル・コンウェイ講師）が参加した。学会の会期中には、アメリカで活躍している仏教研究者と積極的に面談を行い、研究情報を収集した。

二〇一二年度のシカゴ大会に向けて、学会の動向を把握することができ有意義であった。AARは、海外の仏教研究者が最も多く集まる学術大会の一つであり、今後も研究発表を含めて英米班から研究員の派遣を続ける必要がある。

Ⅲ　公開講演会の開催

今年度は以下のような三回の公開講演会を開催した。

(1) 二〇一一年六月二日（木）午後四時一〇分～六時
　於：マルチメディア演習室（響流館三階）
　講師：Kósa Gabor コーシャ・ガボール博士
　（ハンガリー、エトウェシ・ロラーンド大学准教授）
　題目：Some Buddhist Iconographical Features of the Chinese Manichaean Paintings Recently Identified in Japan
　「近年日本で確認されたマニ教絵画にみられる仏教図像学的特徴」

(2) 二〇一一年七月八日（金）午後四時二〇分～五時五〇分
　於：マルチメディア演習室（響流館三階）
　講師：Micah L. Auerback マイカ・アワーバック博士
　（ミシガン大学准教授／日本学術振興会研究員）
　題目：History as Apologetics: New Accounts of the Buddha Śākyamuni in Meiji Japan
　「護法論としての仏教史：明治時代における釈迦牟尼仏の語り直し」

(3) 二〇一一年一一月一五日（火）午後四時二〇分～五時五〇分
　於：マルチメディア演習室（響流館三階）
　講師：Jessica L. Main ジェシカ・L・メイン 氏
　（カナダ、ブリティッシュ・コロンビア大学）
　題目：”Shin Buddhism for the Good of Society: To Act within or beyond the Religious Organization (*kyōdan*).”
　「社会のための浄土真宗―教団を通して実践するか否か―」

今年度三回の講演会は、比較的若い研究者による意欲的な内容の研究発表であり、活発な質疑が交わされた。他にも講師依頼を検討していた研究者があったが、来日の日程の都合などにより、予定した四回目の開催はかなわなかった。

Ⅳ　その他

国際研が収集してきた未整理の図書の整理・公開については、図書館と連携した作業を継続する。研究活動・公開講演会などの広報や研究成果の公表については、研究所報・HP・サイボウズ掲示板などのメディアの積極的な活用をはかり、紀要や学術雑誌に積極的に論文を寄稿する努力を続ける。

〈ドイツ・フランス班〉

一　研究発表

二〇一一年五月一二から一四日に、ドイツ・マールブルクにて「第七回国際ルードルフ・オットー・シンポジオン」が開催され、村山保史氏（本学准教授・海外特別派遣者）が参加し研究発表を行った。

このシンポジウムは、国際仏教研究が中心となって交流してきたマールブルク大学神学部が主催するものであり、ドイツ国内外から広く神学者・宗教学者などが集って三年ごとに行われている。

今回のテーマは“Geschlechtergerechtigkeit: Herausforderung der Religionen”（性の公正：諸宗教の挑戦）であり、諸宗教における性に関する公正性（正義）がどう認識され、確保されているかについて議論がなされた。

そのようなシンポジウムにおいて、村山氏は“Transdenzvorstellungen”（超越のイメージ）というサブテーマがついたブロックに属し、“Genderimplikationen in Symbolisierungen des Gottlichen in buddhistischen Traditionen in Ostasien”（東アジアの仏教的伝統における神的なものの象徴化に示唆されるジェンダー）というタイトルで講演を行った。

二　シンポジウムの論文化（刊行準備）

二〇一〇年にフランス国立高等研究院において行われたシンポジウム「フランスと日本におけるナショナル・アイデンティティと宗教」で口頭発表した原稿を加筆修正し、論文化（英語・フランス語）したものを同研究院のフィリップ・ポルティェ教授に送り、フランスでの刊行の準備をすすめた。

ロバート・F・ローズ　“The Buddhist-State Relationship in Japan: Some Observations on the Thought of Saichō and Kūkai, Two Early Medieval Monks of the Ninth Century（日本における仏教と国家—最澄と空海の思想についての一考察）

村山保史　“State and Religion in the Thought of D. T. Suzuki”（鈴木大拙の思想における国家と宗教）

藤枝真　“Keeping Up the Grand Narrative: National Identity and State Shintoism in the Public Sphere”（「大きな物語」を保ち続けること：公共領域におけるナショナル・アイデンティティと国家神道）

番場寛　“Essai sur le discours religieux dans le Japon contemporain - Autour des differents noms de Shinran et du Namuamidabutsu”（宗教の〈ディスクール〉への試論—親鸞と南無阿弥陀仏の異名をめぐって）

〈東アジア班〉

中国社会科学院歴史研究所の共同研究

中国社会科学院歴史研究所とは二〇一〇年に学術交流協定

を締結し、交流に努めてきた。本年度は二年目に当たり、本学から二名が先方を訪問、先方から四名を本学へ招聘し、交流を深めた。また、今後の交流に関する協議も行った。

一・二〇一一年一〇月一三日（木）～一七日（月）、浅見直一郎教授、福島重任期制助教が、中国社会科学院歴史研究所を訪問し、研究発表を行った。

○三～八世紀における日中の葬制比較　浅見直一郎

○宋元時代の河南仏教―嵩山少林寺を中心にして―

福島　重

また、北京市及び周辺の仏教寺院における調査を行った。

二・二〇一一年一二月四日（日）～一〇日（土）、楼勁研究員、張彤『中国史研究』編集部主任、劉暁研究員、張国旺副研究員を招聘し、本学にて研究活動を行い、公開研究会を開催した。

一二月八日（木）午後二時四〇分～五時　マルチメディア演習室（響流館三階）

○近年新たに刊行された河北の元代仏教碑刻とそれに関する問題

張国旺（中国社会科学院歴史研究所　隋唐宋遼金元史研究室副研究員）

○元代『大開元一宗』補論

劉　暁（中国社会科学院歴史研究所　隋唐宋遼金元史研究室研究員）

○中国大陸の史学雑誌の発展状況

張　彤（中国社会科学院歴史研究所『中国史研究』編集部主任）

○近年の中国古代史新資料の発見とそれに関する問題

楼　勁（中国社会科学院歴史研究所研究員、歴史研究所所長助理、科研処処長）

なお、今回来日された楼勁先生は中国社会科学院の国際交流事務責任者でもあられたため、協定に基づく今後の交流についての協議を行い、今後の交流実施について、双方が組織的にすすめられるように認識を一致させた。具体的には、毎年の研究者の相互訪問や出版物の交換などが決められた。さらに研究者の交流をすすめつつ、三年後ぐらいをめどに共同学会を開催することを目標に取り組んでいくことで合意した。また、先方からは若手研究者の育成のため、院生などが留学することに関しても受け入れ準備があるとの申し入れがあった。

西蔵文献研究

研究目的

本研究班の目的は、北京版チベット大蔵経をはじめとする本学所蔵のチベット語文献、ならびにタイ王室寄贈の多数のパーリ語貝葉写本を、国内外の研究者からの要請が多い文献を中心に電子テキスト化やデジタル画像化を施し、国内外の研究を支えるために公開することである。

研究計画

一　貴重なチベット語文献の電子テキスト化

本学所蔵の稀覯書ツァンナクパ著『量決択註』（*Tshad ma rnam par nges pa'i Ti ka legs bshad bsdus pa*）の電子テキスト化を進め、科文とダルマキールティの『量決択』（*Pramāṇaviniścaya*）の対応箇所を入力した校訂テキストを作成し、公開する。ネット上での公開に加え、さらに冊子体での出版を検討する。

また本学所蔵の木版本を底本として既に入力済みのミラレパの『グルブム（十万歌）』の電子テキストに、テンギェーリン版および青海民族出版社本の異同を調査して校訂したテキストを作成して公開する。

二　大谷大学図書館所蔵チベット語文献データベース

大谷大学図書館所蔵データの提供を受け、それを基に研究者向けのデータベースを作成する。さらにTBRC（Tibetan Buddhist Resource Center）のチベット語文献ＰＤＦコア・コレクションの学内での利用促進のためにデータベースを作成する。

三　パーリ語貝葉写本のデジタル化

今までに稀覯文献と判明しているものを中心にデジタル画像データ化の作業を進めている。それと同時に、現地調査も実施しながら、タイ王室から寄贈されたものを中心とする東南アジアのパーリ語貝葉写本（〈大谷貝葉〉と略称）における稀覯文献の抽出作業を行なっている。

これら一連の作業の中で、大谷貝葉のうち稀覯文献と考えられるテクストと、同一内容と思われる数点の写本が海外の研究機関に保存されていることが確認された。よって二〇一一年度は、フランス極東学院（ＥＦＥＯ）名誉講師ジャクリーン・フィリオザ女史の協力のもと、ＥＦＥＯにおいて写本の同定作業を進める。

四・海外の研究者、研究機関との交流

海外の研究者、研究機関との交流を行ない、適宜に研究会などを行なう。

研究成果

西蔵文献研究班は、以上の研究計画に基づき二〇一一年度の研究を行なった。それぞれの研究成果は以下の通りである。

一　貴重なチベット語文献の電子テキスト化

本学所蔵の稀覯文献、ツァンナクパ著『量決択註』（*Tshad ma rnam par nges pa'i Ti ka legs bshad bsdus pa*, 大谷蔵外 No.13971.）の電子テキスト化について、校訂・編集作業を進めた。

当初、一九八九年に臨川書店より複製物『善釈要集：知識論決択広註』大谷大学編として出版されたものを底本としていたが、不鮮明な点が多く、より精密な校訂作業が行なえるよう当該文献の撮影を二〇一一年六月一七日（金）から一八日（土）にかけて行なった。

校訂テキストの入力作業は全三章終了した。科文の作成は

第二章まで終了し、第一章までテキスト中に科文を加えた。『量決択』の対応箇所を確認し、入力している最中である。年度内に第一章の校訂テキスト（科文および『量決択』の対応箇所を含む）および、第二章の校訂テキスト（科文を含み『量決択』の対応箇所は未記入）を公開する。

ミラレパの『グルブム（十万歌）』については、西蔵文献研究班ホームページ（http://web.otani.ac.jp/cri/twrp/staff/index.html）で公開している。

二　大谷大学図書館所蔵チベット語文献データベース

北京版チベット大蔵経とTBRC（Tibetan Buddhist Resource Center）より購入したチベット語文献PDFコア・コレクションを、学内で利用できるようにした。利用手順は、まずTBRCのホームページ（http://www.tbrc.org/）より閲覧を希望する文献の番号を検索し、その番号をもとに、大蔵経であれば、http://www-i.otani.ac.jp/tbrc/tripitaka.html から、その他のチベット人の著作（蔵外）に関しては、http://www-i.otani.ac.jp/tbrc/tbrc.html から直接PDFにアクセスできるようにした。なおいずれも学内関係者にのみ利用を限っている。

昨年度の科研（研究成果公開促進）により撮影した本学所蔵北京版チベット大蔵経のPDF（中観部・唯識部）については、今年度（五月以降）http://web.otani.ac.jp/cri/twrp/tibdate/search.html から閲覧できるようにした。このホームページは学外からのアクセスが可能である。また、今年度は科研としては採択されなかったが、学内者による撮影技術の習得と維持のために二月末より約一ヶ月間、北京版の撮影作業を実施している。

大谷大学所蔵蔵外文献については、オンラインデータベースが完成した。公開については、学内サーバーの準備が整い次第、実施する（来年度初め）。

三　パーリ語貝葉写本のデジタル化

本学所蔵の数ある稀覯写本の中で、*Mahābuddhaguṇanvāta aṭṭhakathā*（請求記号番号：XXXIX -5, 6）という文献が、現時点では大谷貝葉以外には現存していない可能性を、フランス極東学院名誉講師ジャクリーン・フィリオザ女史によって指摘されていた。二〇一一年八月四日より一六日にかけて、本研究班嘱託研究員：清水洋平氏によるパリ・フランス極東学院での調査の結果、同一のタイトルが記された文献は存在しないこと、タイトルは同一ではないが内容が一致するという文献（クメール文字写本ではタイトルの一部が省略される場合が時折見られる）も見あたらないことが確認された。よって、大谷大学が所蔵する同文献については、現時点では、他にその存在が確認されていないことから、貴重な写本文献資料であることが確認された（詳細は「研究所報」No. 59を参照）。

本学所蔵のその他の貝葉写本についても、国内外の研究者からの問い合わせがあり、今後の対応を検討している。

四　海外の研究者、研究機関との交流

二〇一一年一〇月六日(木)：中国蔵学研究中心の鄭堆副総幹事長をはじめ、七名の研究員が本学に来校し、研究所を視察し、図書館において本学所蔵の西蔵語文献を閲覧した。その際、本研究班として情報交換を行ない、今後、交流を続けていくことを確認した。また、来年（二〇一二年）夏、北京で中国蔵学研究中心主催の学会が開催されるが、本研究班からも参加することになった。

二〇一一年一一月一七日(木)：中国故宮博物館より研究員が本学に来校し、研究所を視察し、図書館において本学所蔵の西蔵語文献を閲覧した。その際、本研究班としての活動を紹介するなどして、今後も相互に交流することを確認した。

真宗同朋会運動研究

本研究は、真宗と社会との関わりを主題とし、具体的には真宗同朋会運動における求道と獲信に学ぶものである。したがって、本研究は、一人ひとりにおける「群萌の目覚め」に視点を置き、特に、求道の道程に焦点をあてて、一人ひとりの宗教的人格に触れることを通して、真宗同朋会運動の意義を明らかにすることを目的とする。

また、信仰が生み出す社会性、および人々の精神性に与えた影響なども調査を通して把握し、真宗同朋会運動の現状や社会的・現代的意義を明らかにしていきたい。

以上のことから、本研究は昨年度に引き続き、全体を理論編と調査編の二部構成として組み立てた。具体的な研究は以下のとおりである。

①理論編の成果：

基礎資料の作成：研究の基礎資料づくりとして、真宗大谷派宗門内で、同朋会運動に尽力され、リードした先達の思想などの整理をしていく。具体的には以下の人物に焦点をあてて、思想やその背景の把握につとめた。

・曽我量深・暁烏敏・高光大船、・高光一也、・訓覇信雄、・松原祐善、・藤原鉄乗・坂木恵定、・米沢英雄　他

②調査編の成果：別紙参照

公開研究会：同朋会運動の社会的意義を明確化していくために、宗門内・外両面からの意見・研究報告を公開研究会（計一三回）という形で、研究展開した。また、宗門の研究機関である教学研究所や全国推進委員協議会との連携また、学外研究機関(東京大学など)とも交流し、具体的に研究活動を展開した。その具体的成果の一つが「お念仏手渡し奉仕団」の企画と展開である。この活動は、御門徒の方々の

大谷大学への信頼を回復し、深めたという実績を挙げている。同時に学生達の学びにも具体性を開くことに寄与した活動である。

聞き書き調査の実施：本研究の中心であり、門信徒の方々に「聞き書き」という調査手法を用いた調査を展開した。本調査は、「聞き書き」という手法の特性から、一件あたりの調査時間に膨大な時間を要する。この研究期間をとおして、全国各地で約三〇件の調査を行っている。詳細な調査結果については、ここでは省略させていただく。

③成果の出版：別紙参照

現在、本研究班の成果の出版に向けて活動している。内容の構成については、別紙のような構成をもとに作業を進めているが、今後の研究成果の検討や出版社（法藏館）との協議などから変更する場合がある。

真宗同朋会運動研究班・公開研究会等活動（二〇〇八・一一～二〇一二・二現在まで）

年月日	場所	活動	講師等	備考
二〇〇八・一一・一〇	学内：尋源館会議室	学外講師を招いての研究会	末木文美士（東京大学大学院教授）	真宗同朋会運動を分析するうえでの視点を、学外講師を招いて学んだ。
二〇〇八・一一・二七	学内：博綜館H三〇二教室	学内講師による講義	水島見一（本学教授）	水島先生より、同朋会の歴史についての講義をうけ、同朋会運動に対する基礎知識を学んだ。
二〇〇八・一二・八	学内：博綜館H五〇二教室	学外講師を招いての研究会	福島和人（前大谷大学非常勤講師）	福島先生より、調査手法としての「聞き書き」についての講義、意見交換などを行った。
二〇〇九・一・二三	真宗本廟視聴覚ホール	二〇〇八年度中央同朋会議へ参加		中央同朋会議に出席し、同朋会運動を担ってきた先生方の問題提起とパネルディスカッションを聞いた。
二〇〇九・二・五	学内：博綜館H五〇四教室	教学研究所との会議		本研究を教学研究所と協同するにあたり、教研の現状についてのレクチャーを受け、方向性等の検討会議を行った。
二〇〇九・三・一三	学内：尋源館会議室	学外講師を招いての研究会	村上堅正、高光信夫	真宗の教えに生きた人（信心の人）のお話を実際に聞くことで、同朋会運動の意義を考える。また今後の聞書調査において、聞くキーワードを検討する。

二〇〇九・四・一	学内：博綜館第三会議室	第二回公開研究会	二階堂行邦		真宗に生き、同朋会運動を推進された二階堂先生のお話を聞き、同朋会運動への学びを深め、その意義を考える。
二〇〇九・四・二一	学内：水島見一研究室	法蔵館と打ち合わせ	戸城三千代・満田みすず		研究成果物の出版打ち合わせ
二〇〇九・四・二四	学内：博綜館H五〇一教室	全国推進委員協議会委員長と打ち合わせ	大村氏、本山研修部（井上　正・玉樹　崇・山本　了）		全国推進員連絡協議会「同朋会運動50周年記念事業」（念仏手渡し奉仕団企画）の打ち合わせ【以後年に5～6回開催】
二〇〇九・五・一八	金沢県小松市	一楽典次氏に聞き書き調査	一楽典次		
二〇〇九・六・二	学内：マルチメディア演習室	第二回公開研究会	信楽峻麿	ヘタイトル〉「真宗同朋会運動に学ぶ」	
二〇〇九・六・五	学内：博綜館第二会議室	第三回公開研究会	下田正弘	ヘタイトル〉「真俗二諦の現代的意義」	
二〇〇九・六・九	学内：博綜館第五会議室	第四回公開研究会	近藤　章		
二〇〇九・六・一八	学内：マルチメディア演習室	第五回公開研究会	マイケル・パイ	ヘタイトル〉「親鸞思想と現在社会の危機―無関心・無倫理の生き詰まりからどう出るか―」	
二〇〇九・六・三	学内：マルチメディア演習室	第六回公開研究会	岩田文昭・大澤広嗣・碧海寿広・ワルドライアン	科学研究費補助金・基盤研究「近代化の中の伝統宗教と精神運動―基準点としての近角常観研究」	
二〇〇九・七・七	学内：マルチメディア演習室	第七回公開研究会	阿摩利麿	ヘタイトル〉「真宗同朋会運動の意義」	
二〇一〇・五・二〇	学内：メディアホール	第八回公開研究会	上田閑照	ヘタイトル〉「清沢満之とは誰か―当時に於てそして現在の私たちにとって―」	
二〇一〇・五・二五	法蔵館	法蔵館と打ち合わせ	戸城三千代・満田みすず		研究成果物の出版打ち合わせ
二〇一〇・七・四	学内：真宗大谷派教学大会会場	真宗大谷派教学大会発表			教学大会にて今研究での成果を水島・佐々木・安居が発表
二〇一〇・七・一〇～一二	東本願寺同朋会館	お念仏の手渡し奉仕団参加			
二〇一〇・七・二二	学内：メディアホール	第九回公開研究会	亀井　鑛		ヘタイトル〉「真宗同朋会運動について―その歩みと今後の展開―」
二〇一〇・九・七～八	大阪府大阪市（@難波別院）	データベース班からの仕事依頼			
二〇一一・一・一二～一三	東京大学	親鸞ルネッサンスへ参加			
二〇一一・七・九～七・一一	東本願寺同朋会館	お念仏の手渡し奉仕団参加			

執筆者紹介

大内文雄	二〇一一年度一般研究（大内班）研究代表者・本学教授
延塚知道	二〇一一年度一般研究（延塚班）研究代表者・本学教授
村山保史	二〇一一年度一般研究（池上班）研究員・本学准教授
朴　珣英	二〇一一年度特別研究員・前本学助教
高橋　真	二〇一一年度一般研究（高橋班）研究代表者・本学講師
山本貴子	二〇一一年度一般研究（山本班）研究代表者・本学教授
脇中　洋	二〇一一年度一般研究（脇中班）研究代表者・本学教授
福田洋一	二〇一一年度一般研究（福田班）研究代表者・本学教授
髙山芳治	二〇一一年度一般研究（髙山班）研究代表者・本学教授
岩渕信明	同　研究員・本学教授
関口敏美	同　研究員・本学教授
市川郁子	同　研究員・本学講師
西沢史仁	二〇一二年度特別研究員・東洋文庫研究部嘱託
ロバート　F.　ローズ	二〇一一年度指定研究（国際仏教研究）研究代表者・本学教授
井上尚実	同　研究員・本学准教授
マイケル　J.　コンウェイ	同　嘱託研究員・本学非常勤講師